

広報 すぎなみ

新年あけまして  
おめでとうございます

Suginami

1/1  
令和4年(2022年)  
No.2320



支えあい共につくる  
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

令和4年を迎え、新しい一年がスタートしました。皆さんはどのような一年にしたいと願いますか？ 新春を飾る今号は20代の区民お二人にご登場いただき、新年の抱負やこれからの杉並のまちづくりなどについて、田中区長と語り合っていました。みずみずしい感性に満ちた二人の言葉、そして区長から次の世代を担う若者に向けた熱いメッセージが盛りだくさんです。ぜひ、ご一読ください。

New Year Interview

# 新春座談会

謹賀新年



Contents—主な記事—

5 | 3年度「成人祝賀のつどい」を開催します    6 | 3年度杉並区技能功労者表彰    7 | 「東京高円寺阿波おどり」を題材にした演劇作品の出演者を募集します

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📝 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



杉並区区制施行90周年

# 人と人とのつながりを大切に、今と未来を見据えて進む年に

## 新たな10年に向かって新基本構想がスタート!

区長：あけましておめでとうございます。新年を迎えました。杉並区では新たな10年を見据えて策定された新基本構想がスタートする年です。新基本構想は、区がこれから進むべき道筋を指し示す「羅針盤」的役割となる大切なもの。策定に際しては、審議会の区民委員として齋藤さんご参加くださいましたね。

齋藤：大学で都市計画を専攻しており、フィールドワークでさまざまな自治体のまちづくりに関わってきました。そんな中で、自分が生まれ育った杉並のまちづくりに関心を持つようになりました。委員の公募を見つけたのがちょうど、新型コロナウイルスの影響で留学先のスウェーデンから帰国せざるを得なくなり落胆していたこともあり、「これなら大学で学んだことを生かしながらいやがいをを持って取り組めるかもしれない!」と気持ちを切り替えるきっかけにもなりました。

区長：若い世代の方の柔軟な考えや意見が審議会に加ったのは大変喜ばしいことです。留学で海外を経験してきた分、視野も広がっているでしょうし、相対的に日本のまちづくりの遅れている部分や不足している部分、そして良い部分も見えているのではないかと頼もしく感じます。

齋藤：福祉国家であるスウェーデンで学んだ経験を生かしなが、審議会では主に医療や福祉の分野の部会で発言をさせていただきました。自分の暮らす地域のまちづくりに参画できたことはとても良い経験になりました。

## 若い世代こそ鋭敏な感性を信じて自己主張を

区長：鎌田さんは今月成人式を迎えますね。長く続くコロナ禍で、多くの方が「リアルに人と会う」という機会を失いました。成人式で旧友たちと会えることは、やはりうれしさもひとしおではないでしょうか?

鎌田：小中学校時代の懐かしい友達に会えることを楽しみにしています。私は現在大学2年生ですが、コロナ禍では学校が閉鎖されたり、再開後も対面の授業が減ったりと、以前とは学びのスタイルがずいぶん変わりました。そのような制限された状況の中で自分はどういう取り組みをすれば、周囲を巻き込んでより充実した学生生活を送ることができるのか、何度も考えながら行動していました。さまざまな課題に直面した2年間でしたね。



区長：自分たちの意見を主張するというのもとても難しいことです。「どうい状況であれ、自分の信念や正しいと感じたことを表明できる人間であるべき」というのは、私自身は父から学びました。社会の中にはどうしても矛盾が生まれ、それはある意味では仕方のないことかもしれない。ただ、そんな中で「おかしい」と感じた時にきちんと「おかしい」と言えること。そして、それを見過ごすのではなく改善していこうと思うこと。それがとても重要だと思うのです。そういった違和感や矛盾に気付ける感性というのは、皆さんのような若い世代のほうが敏感ではないでしょうか。ぜひ声を上げていくべきだと思います。



齋藤貴子(さいとう・きこ) 25歳。杉並区出身および在住。スウェーデンへの留学経験や大学で学んだ都市計画の知識を生かして、杉並区の基本構想審議会に区民委員として参画。大学を卒業した現在は企業で開発等に関わる仕事をしている。

鎌田律(かまだ・りつ) 20歳。杉並区出身および在住。区立天沼中学校在学中に次世代育成基金活用事業でオーストラリアのウィロビーへ。現在は大学経営学部で学びながら大学の所属団体の活動にも尽力している。

鎌田：自分の考えや意見を持ち周囲に発信する大切さを、私は杉並区次世代育成基金の中学生海外留学事業でオーストラリアのウィロビーに行かせていただいた経験から学びました。小さな出来事なのですが、ある日ホストファミリーの方に「週末にどこに行きたい?」と聞かれて私が「どこでもいい」と答えたら、相手はとても困ってしまったのです。海外では自分の意見を持っていることが当たり前であり、大切なことなのだと思われた経験でした。その時の気付きは今もとても役に立っていて、何か課題を見つけた時はそのままにせず、意見を伝えて改善できるように心掛けています。

## どんな杉並にしたい? 区長の思い、区民の思い

区長：私は区長に就任して12年目になりますが、改めて、行政が果たすべき仕事というのは大きく二つあると感じています。まず一つは、困っている人を助けること。その人がどのような事情で困っているのかを考え、困らなくていように社会の仕組みやルールを改善していくこと。これは政治の最も大切な仕事ですし、自身の区長としての原点でもあります。そしてもう一つは、自身が生きる「今の時代における責任」を果たすこと。誰にでもその世代における責任というものがあります。それが一体何であるのか、何に取り組むべきなのか、頭で考え肌で感じ、解決していこうと努力を積み重ねていくこと。そうした営みこそが人間の歴史というものではないかと思うのです。私は区長として以上の二つの仕事を常に心に置き、杉並

区を預かっています。これからの時代を担う皆さんは杉並区がどのようなまちであることを期待していますか? ぜひ教えてください。

齋藤：基本構想審議会でも強調させていただいたことですが、これからの時代は、ジェンダー観をはじめとしてこれまで良いとされていたものやそうでないものの境界線がどんどんなくなっていくと感じています。それらの境界を取り去っていく仕組みづくりを推進していくことが、まちづくりでも大切になってくるのではないのでしょうか。また、先ほど区長もおっしゃったように自分の意見を発信することはとても大切です。そのベースとなるのはまず「自分を認められること」だと思うので、人権教育や心のケアの充実といった点も推進されていくといいなと期待しています。

鎌田：大学やアルバイト先でたくさんの人と接していると、世の中には本当に多様でいろんな人がいるのだなと実感します。私は杉並区が多様性を大切にできる地域になればずきだと思っています。そのためには、例えば小学生や中学生といった子どもの時期から多様性についてきちんと知って理解する場が設けられていることが大切ではないのでしょうか。教育の中にそういった項目がより充実して組み込まれていくといいなと期待しています。

齋藤：私は審議会に参画して、私たちの細かな事を一つ一つ取り上げてくださっていることに驚きました。パブリックコメントに関しても全ての意見を審議会資料に掲載し、それぞれに回答根拠を示しな



がら教えてくださいました。区民の声に丁寧に向き合う積み重ねの姿勢こそが、杉並区の区政なのだなと改めて感じています。

## それぞれが抱く新年の抱負。区長が伝えたいこと

区長：今日対談では、次の時代を担うお二人から心強いお話をたくさんお聞きでき、とてもうれしいです。新たにスタートした令和4年、新基本構想に基づいてきっちりと足元の課題を解決していくことを肝に銘じ、当たり前前を当たり前に行うことを徹底していきたいです。また、今年区制施行90周年を迎え、その先の100周年を見据えた動きも始まっています。後世に語り継ぐべき杉並の歴史5選を今後の杉並区の道しるべとして残せるよう、演劇、活字、映像などさまざまなアプローチを試みているのでぜひ注目してください。最後にお二人の新年の抱負もお聞きしたいと思います。今年、どのような一年にしたいですか?

齋藤：昨年は社会人1年目だったこともあり、あたふたと余裕のない日々を過ごしました。今年はもう少し余裕を持って、仕事だけでなくプライベートも充実させていきたいと考えています。コロナ禍以前は旅行が好きでいろんな国や場所を訪れていたのですが、コロナ禍が落ち着いてきたらまた旅行に行きたいなと楽しみにしています。

鎌田：私は4月から大学3年生になり、いよいよゼミ活動が始まります。同時に就職活動も徐々に始まります。さらに、大学で所属している団体が代表を務めることも決まっていますので、とても忙しい一年になるだろうと予想しています。3つの大きな活動が始まるけれど、どれもおろそかにすることなく、しっかりと続けていけるように一生懸命頑張りたいです。

区長：若いお二人はこれからどんどん広い世界に出ていき、多くの人と出会っていくことでしょう。人と会い、人の話に耳を傾けることは、自身の血となり肉となります。どこかで聞きかじった話ではなく、直接顔を合わせて話すことで初めて真意が分かるということもたくさんあります。リモートが定着しつつある現代ではありますが、どんなに便利な世の中になっても、人と人の微かな部分でのつながりというものは変わらないはず。ぜひリアルなコミュニケーションも大切にしていってほしいと思います。

そして、もうひとつ伝えたいのは夢を大きく描いてほしいということ。目の前のことにしっかりと取り組むことはもちろん大切です。しかし同時に、未来に向けての夢ややりたいことを心に持って自身を磨いていくことも大切です。失敗を恐れることなく、たとえ空振りでもいいのだから、ぜひ思い切っているんなことに挑戦してってください。

